

物質名	光化学オキシダント	二酸化硫黄	一酸化窒素・二酸化窒素・窒素酸化物			浮遊粒子状物質
			一酸化窒素	二酸化窒素	窒素酸化物	
注意報の発令基準値	0.12ppm以上	0.2ppm以上	-----	0.5ppm以上	-----	2mg/m ³ 以上
注意報の発令条件	1時間値が0.12ppm以上	0.2ppm以上である状況が3時間継続		1時間値が0.5ppm以上		2mg/m ³ 以上である状況が2時間継続
各物質の発生原因・環境へ与える影響等	<p>大気中の窒素酸化物や揮発性有機化合物、炭化水素等が太陽の紫外線を受けて化学反応を起こし発生する汚染物質で、光化学スモッグの原因となり、高濃度では、粘膜を刺激し、呼吸器への影響を及ぼすほか、農作物など植物への影響も観察されている。</p> <p>高地や窒素酸化物等の濃度が低い地域では、自然由来のオゾンにより、濃度が上昇することもある。</p>	<p>石油、石炭等を燃焼したときに含有される硫黄(S)が酸化されて発生するもので、高濃度で呼吸器に影響を及ぼすほか、森林や湖沼などに影響を与える酸性雨の原因物質になると言われている。</p> <p>火山活動等により濃度が上昇することもある。</p>	<p>窒素酸化物は、ものの燃焼や化学反応によって生じる窒素と酸素の化合物で、主として一酸化窒素(NO)と二酸化窒素(NO₂)の形で大気中に存在する。発生源は、工場・事業場、自動車、家庭等多種多様である。発生源からは、大部分が一酸化窒素として排出されるが、大気中で酸化されて二酸化窒素になる。</p> <p>二酸化窒素は、高濃度で呼吸器に影響を及ぼすほか、酸性雨及び光化学オキシダントの原因物質になると言われている。</p>	<p>浮遊粉じんのうち、10μm以下の粒子状物質のことをいい、ボイラーや自動車の排出ガス等から発生するもので、大気中に長時間滞留し、高濃度で肺や気管などに沈着して呼吸器に影響を及ぼす。</p> <p>黄砂の影響により濃度が上昇することもある。</p>		